

学校だより 雄飛

佐倉市立西志津中学校 第3号 令和7年6月2日(月)
『自他を認め 進んで考え挑戦し 未来を拓く生徒の育成』
～自己指導能力とWell-beingの涵養～
挑戦(Challenge)・認め合い(Respect)・粘り強さ(Resilience)
発行責任者 岩崎 徹(文責 飯島 健弘)
生徒数 1年118名 2年130名 3年152名 計400名

〒285-0845 佐倉市西志津4-18-1 043-462-1161

◆『善因善果』◆

校長 岩崎 徹

5月12日(月)から2泊3日で京都・奈良への修学旅行を実施しました。保護者様のおかげで、病院にかかる体調不良やケガ等無く、すべての行程を無事に実施できました。東京駅6時45分集合にもかかわらず朝食の準備や、6時30分頃の帰着のお迎えなど、ご理解とご協力をいただいたことに心より感謝申し上げます。改めて、西志津中学校保護者様の「西中愛」を感じました。修学旅行は、中学校特別活動の学習指導要領では「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」と記されています。

【見聞を広め、自然や文化などに親しむ】1日目に学年全員で訪れた奈良公園と東大寺、2日目に班別タクシー研修で訪れた歴史的建造物や京都の昼食、3日目に学年全員で訪れた嵐山の風光明媚な景色や伝統工芸など、見聞を十分に広め文化に親しみ、一人一人学びの多い体験だったと思います。特に2日目の班別研修は、昨年度同様タクシーを利用することで、数多く広範囲の見学と、興味を喚起する楽しい説明で学習の幅を安全に広げることができました。

【集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積む】東京駅・近鉄奈良駅・京都駅と集団で移動したり待機したりする場面で、周囲の状況を考えた行動をとることができていました。ホテルの利用についても、公共のマナーについて十分意識した生活ができていました。一方向を向いた学校給食と違い、buffetスタイルの朝夕食では、対面で食事を取り笑顔と会話があふれ、男女を問わず幾度となくお替わりに足を運ぶ姿は、見ていて嬉しく思いました。そして様々な場面で、この場を提供してくださる方への「感謝」について伝えることができていました。集団生活で楽しむことは大切で、自分も仲間も大切に作る言動を常に心がけることがキーファクター。集団として見取ると十分達成したと感ますが、ご家庭でのお土産話はいかがだったでしょうか。お気づきのことがあれば学校にお声掛けくださいますようお願いいたします。

5月22日(木)は、多くの保護者様が体育祭に足を運んでいただきありがとうございました。数日前から前夜まで天気予報から目が離せず、憂いを強く感じていましたが、おかげさまで天気に恵まれ、無事に実施することができました。急な気温上昇や強風に悩まされながら、西中生は係ごとに一生懸命準備し、休み時間にも練習を重ね、競技の成功に向け力を尽くしました。学級全員リレーや長縄跳びを通し、体育祭スローガン『一蓮托生』にある、絆や仲間を感じる一体感を思い出に残せたことを、共に感じていただけたことと思います。自分のためではなく仲間のために力を尽くす、自分だけを考えるのではなく仲間を支え1つのことを成し遂げる喜びは、「利他性」の視点から大事な経験だと考えます。

自分だけが得するのを避けて、他者の利得を尊重する傾向を「利他性」と呼びます。このことについて、アメリカの認知心理学者マイケル・トマセロ氏の研究結果があります。

生後14か月～18か月(2歳児)の乳児に対して、まったく面識のない大人がちょっと困っているときに乳児は援助するかどうかの実験をしました。

手がふさがっているときに戸棚を開けようとしたり手の届かないものを取ろうとしたとき、参加した乳児24人のうち22人は迷わずに即座に戸棚の扉を開けてあげたり手の届かないものを取ってあげるという援助行動をしました。また他の実験では、幼児が楽しく遊んでいたときにでも、遊びを止めて困っている大人を援助したのです。「人間は、1歳の誕生日を迎えるころから、しゃべりはじめ、また歩き出すことで、文化的存在になり様々な状況で協力的や援助的になる。さらに子どもはこういったことについて大人から学ぶのではなく、自然にそうなる」

つまり、『ひとは助けるように生まれてくる』のです。その後の社会の中で、こちらが援助したら相手が援助してくれるか、自分が所属している集団のメンバーが助けることをどう捉えるかなど体験することで、自分はどう行動するべきかという「社会的規範の内面化」を始めるとトマセロ氏は考えています。このことから人間の利他性は生まれながらにデザインされているが、社会化する過程でさまざまに変化するものだと考えられます。そこで、「情けはひとの為ならず」という諺が頭に浮かび

ますが、正しくはどちらでしょう。

A:人に情けを掛けておくと、巡り巡って結局は自分のためになる

B:人に情けを掛けて助けてやることは、結局その人のためにならない

平成22年度の文化庁の国語に関する世論調査によると、45.7%の回答者がBを選んだそうです。私たちの身近な社会がBを常識にしたら、西中生の利他性と未来はどうなるのだろうかと危惧します。人生は、故野村克也氏が残したことばの一節『世の中、一人では生きていけない。社会は自分の思い通りに動いてくれない』のとおりであることを知っている私たち大人は、自分の利益だけを考えるのではなく、他者の利益にも思いを寄せ、情けを掛け合い、助け合うことの大切さを伝え続けたいものです。仲間を支え1つのことを成し遂げた西中生のこれからの利他的行動もしっかりと賞賛し、「あなたが必要」と心から伝えて、非認知能力の涵養に力を合わせてくださるようお願いいたします。

体育科より

今年度の体育祭を終えて

今年度の体育祭も、無事に終わることができました。天候が心配されましたが、当日は時折晴れ間も見られ、とても良い環境の中で実施することができました。

5月初めの結団式からの約1か月間、体育祭実行委員を中心に学年練習を行い、回を重ねるごとにリーダーとしての自覚、またフォロアーの協力していく姿勢が見受けられました。昼休みには各クラスがグラウンドで長縄の練習を行うなど、クラスでの絆を深めていく姿が見られ、新たな仲間づくりのきっかけになっていったのではないかと思います。また、今年度は学年の枠を超え、縦割り(各色)での活動も実施しました。3年生を中心に後輩の良き手本となり、またお互いの良さを見つけ出し、自分たちに取り入れようとする姿勢は、大変立派な姿でした。

この体育祭を通じて、チーム西志津中の一員として今後さらなる成長、活躍をしてくれることを期待しています。

体育主任 山縣 卓

6月の予定

4日	水	生徒総会	17日	火	教育相談
5日	木	歯科検診(3年・2年3、4組)9時～	18日	水	教育相談
6日	金	脊柱側弯症検診(1年)13:00～	19日	木	教育相談
7日	土	定期テスト前部活動停止(～12日)	20日	金	教育相談
9日	月	職員会議 最終下校14:45	23日	月	学年裁量日 最終下校15:20
10日	火	眼科検診(1年+2、3年抽出)13:00～ 質問学習会	24日	火	教育相談
11日	水	第1回定期テスト 最終下校12:15	25日	水	進路説明会 13:20～ 内科検診(3年・2年3、4組)9:00～
12日	木	第1回定期テスト 最終下校11:30	26日	木	歯科検診(1年+2、3年抽出)9:00～
16日	月	テスト返却開始 最終下校14:45	27日	金	耳鼻科検診(1年+2、3年抽出)13:30～
スクールカウンセラーの出勤日は、木曜日です。6月は5日(木)と19日(木)と26日(木)です。					

7月の予定

1日	火	1年校外学習	17日	木	大掃除
3日	木	全校委員会	18日	金	終業式 午前日課
7日	月	職員会議 最終下校14:45	21日	月	夏季休業(～8/31)
16日	水	給食最終日	22日	火	三者面談(3年生) 保護者面談(1・2年生)(～8/1)
スクールカウンセラーの出勤日は、木曜日です。7月は3日(木)と10日(木)です。					

学習指導部より

【 非認知能力の育成 】

本年度より、Edv Path (エデュパス) という教育プラットフォームを教育活動に取り入れています。子どもの非認知能力の育成をサポートするツールです。非認知能力とは、感情のコントロールや協調性、問題解決能力など、学業成績だけではない内面的な大切なスキルの総称です。人生を豊かにする人ほど非認知能力が高いと言われています。これまでなかなか測られることのなかった非認知能力を可視化することにより、生徒本人が自己理解を深め、自分の強みを知り自信を持てたり、必要とされることを考えて行動に移してみたりすることが期待されます。また生徒の傾向を探ることにより、私たちもあらゆる教育活動の中で非認知能力の育成に向けて具体的な手立てを講じることができるようになります。

まずは第1回目の測定を5月26日に実施しました。75問に4選択肢で素直に回答していくと、自分の傾向が分かるというものです。生徒たちは楽しみながら自分の結果を整理し解釈しているようでした。学校行事後などのタイミングで実施し、生徒たちの変容を見守りながら非認知能力の育成を図っていきたいと思います。



【 第1回定期テスト 】

第1回定期テストが近づいてきました。新しい学年となり、初めてのテストは誰にとっても不安なものです。しかし、計画的に勉強を進めることで、不安を和らげ自信につなげることができます。テスト2週間前(5月28日)にはテスト範囲が発表され、学活の時間に学習計画をたてる時間を設けました。まずは、テスト範囲をしっかりと確認し、どの科目に重点を置くのかを決め、毎日学習時間を確保し粘り強く取り組めると良いです。テストはこれまでの学習の成果を発揮する絶好の機会です。テスト前には十分な睡眠をとり、体調管理にも気を配ると良いです。ご家庭でも学習環境を整え、お子さまが集中して勉強に取り組めるよう支援をお願いいたします。保護者の皆様の温かい励ましとサポートが生徒たちの力となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学習指導部 小林 真理子

生徒指導部より

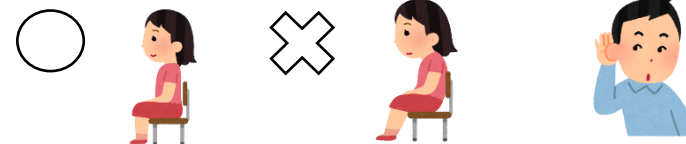
5月は「時間への意識を高める」ことに取り組んできましたが、授業開始の1分前着席が実践できている生徒も多く、よく意識していたと感じています。また体育祭に向けての活動では、どの学年も早めにグラウンドに移動し、準備を整える姿が多く見られ、時間を大切にする意識が確実に向上したと感じています。移動教室や着替えがあるときや、昼休みの後の活動にも遅れないようにしていくことが、今後の努力点です。

6月は「話を聴く姿勢をよくする」ことを目標に取り組んでいきます。授業が進む中でクラスメイトの発表を聴き、互いの意見を交換する場面も増えてきます。生徒総会など、代表生徒の話を聴く場面も多くあります。しっかりと聴き、理解を深めることで、次の活動により積極的に取り組めるようにしてほしいです。

また部活動では、3年生の区切りの大会・コンクールなどに向けて、より信頼関係を深めての活動が求められます。話を聴く姿勢は、理解を深めるだけでなく、互いの信頼関係を築く上でも非常に重要です。相手の話をしっかりと聴き、理解し、反応する姿勢を育んでいくことで、互いの信頼も向上し、より良い活動につながると考えます。そのためにも、まずは次の2つを意識しながら、話を聴く姿勢をよくしたいと考えます。

- ① 話を聴くときは、やっていることをやめる
- ② 話している相手の方に顔を向ける

以上の2つを心がけ、話を聴く姿勢をよくしていくことで、それぞれの活動をより良い方向に進められるよう、私たちも始動してまいりたいと思います。



生徒指導部 金谷 晨

